

## 入居者様の安眠を確保しよう — 第一章 職員間のオムツ 使用方法のバラツキを無くそう —

社会福祉法人飯田福祉会  
特別養護老人ホーム高砂荘

### インプルーバー

#### 施設長からひとこと

忙しい業務のなか、経験者の澤山相談員が新人チームを率いての今回の挑戦、誠にご苦労様でした。

細かいデータを何度も取って、斉藤さん、福田さん始め中心になった方々はご苦労されたことと思います。

見事にサービス向上と経費の節減を実現する事ができ、本当にお見事でした。

今後ともQCの輪が広がるようがんばってください。



●所在地	栃木県宇都宮市
●施設のQC活動年数	7年
●構成人員	6名
●メンバーの平均年齢	27歳
●現メンバーでの活動暦	8か月
●本テーマの活動期間	4か月
●本テーマの会合回数	9回
●会合時間	1回平均1時間
●主な活動時間	業務時間内外

## 1. 職場紹介

社会福祉法人飯田福祉会・特別養護老人ホーム高砂荘の新館は、栃木県宇都宮市平出町に、平成19年5月1日に開所しました。ユニット型施設として、既存の施設と共に、「人を愛し、地域に愛される」をモットーに、全職員一丸となってケアサービスに携わっています。

新館には5つのユニットがあり、1階には古賀志山・八幡山、2階には女峰山・白根山・男体山という名前のユニットがあります。これは栃木県内にある有名な山からいただいたものです。

## 2. サークル紹介

高砂荘新館では、開所間もないということもあり、様々な面で問題を抱えています。この現状から、改善・向上し良くしていこうという願



## 実践サークル紹介



構成人員	6名	構成メンバーの職種	介護士 相談員
平均年齢	27歳	男女構成	3 : 3
現テーマ会合回数	9回	現テーマの活動期間	4ヶ月
現メンバーでの活動歴	8ヶ月	主な活動時間	業務時間 内外
1回あたりの会合時間	1時間	月あたりの会合回数	1~2回

いを込め、「進歩・向上させる」という意味の「インプルーヴ」に「人」を加えた造語「インプルーバー」を作り、サークル名に決めました。

## 3. テーマの選定

テーマの候補として、表のようなものがあり、「オムツ交換方法がユニットごとにバラつきがある」に意見がまとまり選定しました。



評価項目	に利用者の満足度が	急がれている	重要で解決が	期待できる	コスト面の効果	にサークルの実力	に相応しい	施設方針に	得点	順位
入浴の時間に個人差がある (介助時間のばらつき)	5	5	5	5	3	3	3	21	2	
オムツ交換方法がユニット等にバラツキがある	5	5	5	5	3	5	23	1		
食事の配膳方法が不明確 (ユニットへの運搬等)	3	3	3	3	3	3	15	4		
利用者のレクリエーションが充実していない	5	3	1	3	3	3	15	4		
掃除の方法・役割分担が決まっていない	3	5	3	3	3	3	17	3		

テーマの選定

当初取り上げたテーマは、主題を「入居者の安眠を確保しよう」として活動をスタートしましたが、テーマが大きいと、サブテーマを付けて進めることにしました。テーマ候補として、「安眠を阻害する要因であるオムツ交換」に着目し、本テーマとして取り上げて活動することにしました。

なぜオムツ交換のバラつきに焦点を置いたのかというと、まず考えるべきことは、入居者が快適に暮らすためには何が必要か、ということでした。

入居者が快適に暮らすためには、①おいしい食事(食べて)、②本人に合った排泄(出して)、③質のよい睡眠(寝る)が必要とされます。

生活の基本は食事・排泄・睡眠であり、その中でも質の良い睡眠は、食欲の増進や排泄リズムの構築に大きな影響を与えるのではないのでしょうか。

ここで、入居者の安眠を妨げているものを検討しました。

- ①夜間排泄の回数が多く起こしてしまう。
- ②夜間の失禁があるたびに起こしてしまう。
- ③昼夜逆転の方がいると他の方を起こしてしまう。

このことから、排泄方法が決まっていないのではないかと考えました。

- 排泄方法のバラつきが統一されることで、
- ①ユニット毎の排泄方法が決まれば支援もスムーズに行く。

- ②夜間の失禁が減り、交換のために起きていただくことがなくなる。
  - ③睡眠をきちんととることにより、規則正しい生活リズムが構築される。(快食・快眠・快便)
  - ④オムツの使用枚数が明らかになり、コスト面での効果が期待される。
- ことが考えられます。

### ポイント ① テーマの選定

大変良いところは、入居者のQOL向上に着目し、さらに施設長の方針にリンクした活動テーマを選定しています。「テーマは活動の顔」です。サブテーマでわかるように、何が問題であって、どうしたいのかがよくわかります。その問題の取り上げ方も、自分たちの問題(自責)として考えています。さらに選定マトリックス図の「問題点」の表現も「悪さ」でとらえている点はすばらしいです。とにかく、対策的な表現になりがちですので…。

あえて申せば、選定理由は言葉で表現されていますが、ユニットごとのバラツキ状況をデータ化し、グラフにして、選定理由を「データで表現する」(データでものを言う)ことも考えてみてください。

## 4. 活動計画

活動計画は表のとおりです。予定より遅れたこともありますが、メンバー同士で知恵を出し合い、協力して進めました。

活動項目	担当	H19		H20		
		10月	11月	12月	1月	2月
テーマ選定	澤山	→				
現状把握	菊池		→			
目標の設定	福田		→			
要因の解析	澤山			→		
対策検討・実施	斉藤				→	
効果の確認	池田					→
標準化と管理の定着	福田					→
反省と今後の課題	全員					→

活動計画

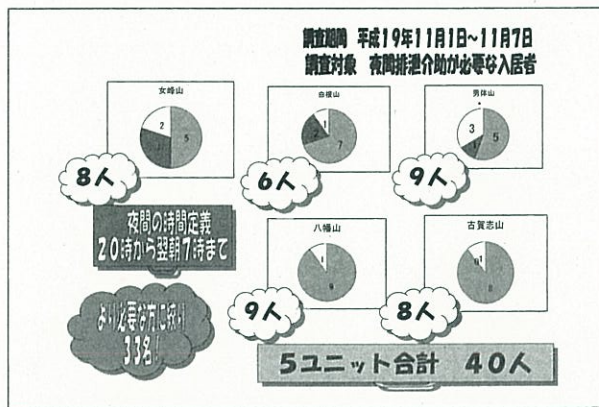
### ポイント ② 活動計画

6人が役割分担し、ステップリーダー制で、ほぼ計画どおりに進めています。リーダー中心に心を合わせ、力を合わせての活動が見えてきます。



## 5. 現状把握

- ①私たちの施設では、青・ピンク・緑の3種類のオムツを使用し、吸収率の高い方から順に、緑・ピンク・青を使い分けオムツ交換をしています。
- ②平成19年11月1日～7日を調査期間とし、各ユニットにおける夜間排泄介助が必要な入居者様を表したグラフです。夜間の定義時間を20時から翌朝7時とし、夜間排泄介助を必要とする入居者様は女峰山8人、白根山9人、男体山6人、八幡山9人、古賀志山8人、全体で40人おり、その中でもよりオムツ交換が必要な33名の方にしぼり、さらにデータを取りました。



現状把握②

- ③ユニットごとに介助方法、総介助回数、使用オムツ種類、一人当たりの平均使用枚数を出しました。この表から、一人当たりの平均枚数が多い

調査期間 平成19年11月1日～11月7日  
対象人数 夜間排泄介助が必要な入居者

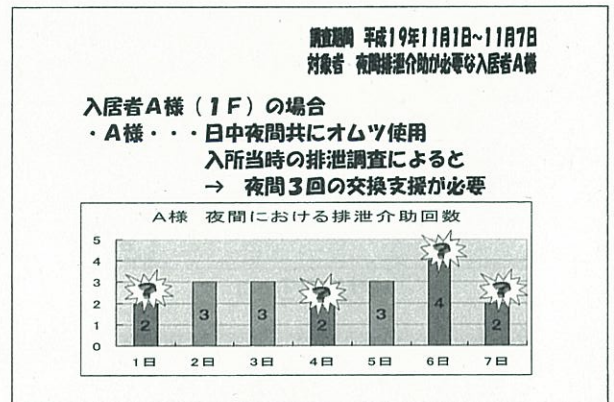
ユニット名	総介助回数(回)		使用オムツ種類(枚)			1人当たりの平均枚数(枚)
	介助回数	一人あたり	緑	ピンク	青	
2 女峰山(8名)	148	18.5	107	18	3	16.0
白根山(4名)	82	20.5	31	47	0	19.5
F 男体山(5名)	87	17.4	87	0	0	17.4
1 八幡山(9名)	193	21.4	158*	6	13*	19.6
F 古賀志山(7名)	104	14.8	14	92*	0	15.1
5ユニット計	614	18.6	397	163	16	17.4

夜間の時間定義 20時から翌朝7時まで  
\* 最大枚数 \* 最小枚数

現状把握③

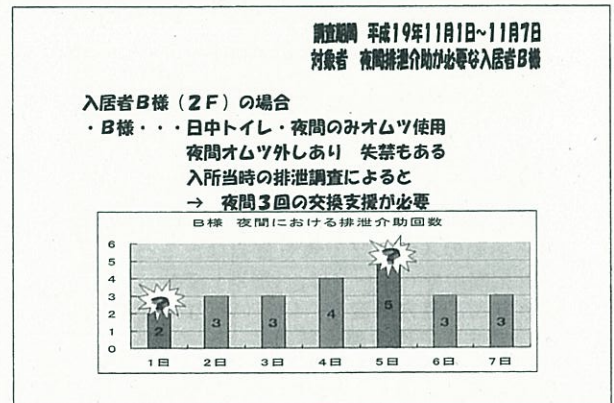
ユニットで19.6枚、少ないユニットで15.1枚、全体平均で17.4枚であるということがわかりました。また、各ユニットで、緑が多かったり、ピンクが多かったりと、様々な種類のオムツを使っていることがわかりました。

- ④-1 1階入居者のA様の場合、日中夜間共にオムツを使用され、入所当時の排泄調査によると、夜間3回の交換支援が必要な方です。11月1日から7日まで調査すると、2回の日や4回の日があり、交換回数がバラバラなのがわかります。



現状把握④-1

- ④-2 2階入居者のB様の場合、日中トイレ・夜間のみオムツ使用、夜間オムツ外しあり失禁もある、入所当時の排泄調査によると夜間3回の交換支援が必要な方です。11月1日から7日まで調査すると、2回の日や5回の日があり、やはり交換回数がバラバラなのがわかります。

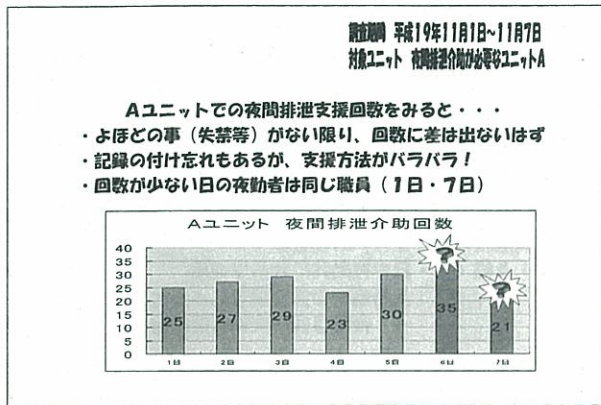


現状把握④-2



④-3 Aユニットでの夜間排泄支援回数を調査すると21回の日や35回の日がありバラバラなのわかります。平均は27回です。

よほどのこと(失禁等)が無い限り、回数に差は出ないはずですが、もしかすると記録のつけ忘れもあるかもしれませんが、支援方法がバラバラなのも要因の1つでしょう。ちなみに回数が少ない1日と7日の夜勤者は同じ職員です。



現状把握④-3

⑤入所者様の中には、入所時は自力排泄が可能だった方が、生活の中で骨折・レベル低下等の要因で排泄介助が必要になった方もいることがわかりました。

現状把握の結果からわかったことは下記のとおりです。

- ①排泄介助の方法が標準化していない。人によって、日によって回数、種類、当て方が違う。
- ②ユニット毎に介助者数、オムツ使用数に差がある。
- ③入所してから排泄介助が必要になった方がいる。(アセスメントに活かされていない)

**ポイント ③ 現状把握**

改善活動のステップで最も重要なところですが、この現状把握のキーワードは、「層別」です。現状把握①~⑤まで、見方を変え、いろいろな角度から調査しています。三現主義と観察によってデータ化し、実態の悪さを「見える化」しています。

あえて申せば、調査期間の7日間は短いですね。できれば1か月位の期間があると良かったと考えます。

**6. 目標値の設定**

現状把握によりユニット毎の平均オムツ使用量が明らかになりました。そこで、各ユニットの中で一番使用枚数の低い平均値のユニットに合わせ、2月末までに現状のオムツ使用料15%減を目指し、一人当たり17.4枚から14.8枚に減らすことに的を絞りました。

個々にあった排泄を知る → 夜間の排泄回数が定例化・パターンが出来る  
→ オムツの枚数、介助方法が明らかに(効率化)  
現状把握よりユニット毎の平均オムツ使用量が明らかに!  
そこで・・・  
各ユニットの中で一番低い平均値のユニットにあわせてみよう!

**①何を・・・オムツ使用量**  
**②何時までに・・・2月末までに**  
**③どうする・・・15%減を目指す**

**一人当たり 17.4枚 → 14.8枚**

目標値の設定

**ポイント ④ 目標設定**

目標設定の3要素、「何を」、「何時までに」、「どうする」でしっかり設定しています。さらに良い点は、15%減とした根拠が明確になっていることです。このように目標設定した根拠(理由)をはっきりさせることが大切です。

あえて申せば、サブテーマ名の職員間のオムツ使用方法のバラツキ率に着目して、設定項目を考えてみるとよいと思います。

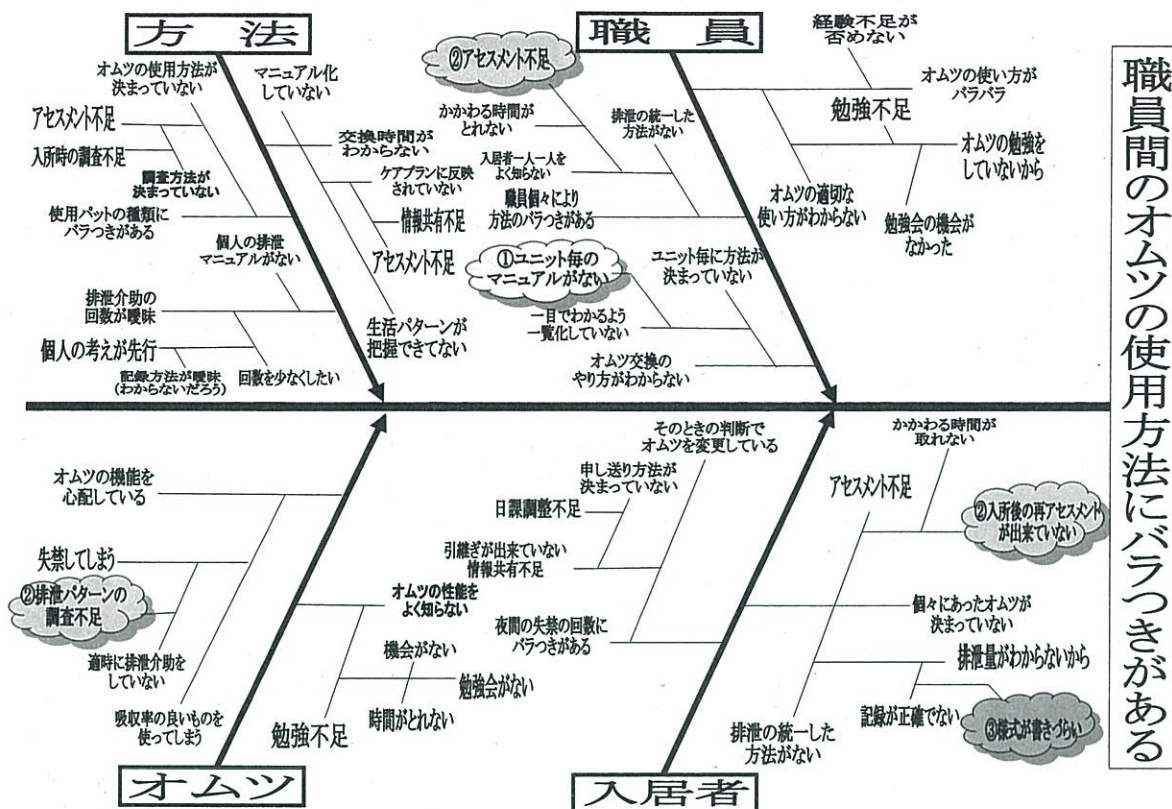
**7. 要因解析**

職員間のオムツの使用方法にバラつきがある原因を探りました。大きく、職員・方法・入居者様・オムツの4つに分けて解析したところ、

- ①ユニット毎のマニュアルが無い
- ②アセスメント不足
- ③勉強会の機会がない
- ④情報共有不足
- ⑤入所後の再アセスメント不足
- ⑥記録書式が書きづらい
- ⑦排泄パターンの調査不足

が挙げられました。





内容が重複する部分があるため、対策については統一して検討したのもあります。

**ポイント ⑤ 要因解析**

重要要因を追求するために「なぜなぜ5回」と言われていますが、そのとおりに、大骨、中、小、孫、ひ孫骨まで深く掘り下げています。その上で、重要要因を、末端の孫・ひ孫骨から抽出している点は他のサークルの学ぶべきところです。参考になります。

あえて申せば、「特性」はテーマそのもののように思いますが、現状把握で絞り込んだ結果を特性に持つてくるとさらに良くなります。

今後、重要要因が本当に原因であるかを検証するようにしてください。

対策要因	対策	何時	何処	誰が	何を	どう	よ	何
①ユニット毎のマニュアルが無い	マニュアル作成・策定	早急に	各ユニット	福田 斉藤	排泄マニュアル	作成(各ユニットに依頼)	1月10日	時
②入所後の再アセスメント不足	再アセスメント	早急に	ユニット	澤山	再アセスメント	現場と協力し行なう	1月10日	時
③記録が書きづらい	記録様式見直し	早急に	ユニット	菊池 池田	書き易い日誌記録	検討作成	12月中	時

対策の検討・実施

次に、排泄パターンの調査(時間・回数・種類・あて方等)を依頼しました。(24時間シート・排泄パターンシートの活用で再確認)

**8. 対策立案の実施**

**①ユニット毎のマニュアルがない。**

各ユニットリーダーに、個々の24時間シート作成を依頼しました。もともと入所時にはありましたが、生活と共に変化が生じそのままになっているものばかりでした。この表により、その方が、いつ、どのような支援を必要としているかがわかります。

名前	A様	B様	C様	D様	E様
食事	常食	常食・1口大	粥・キザミ	常食	ミキサー
排泄(昼)	トイレ	トイレ 一部介助	昼夜 オムツ使用	トイレ 一部介助	トイレ
排泄(夕)	トイレ	ポータブル	オムツ	オムツ	トイレ
18:00	食事	食事	食事	食事	食事
18:30		トイレ			
19:00	テレビ観賞		声掛けにて 休まれる		
19:30				トイレ後 休まれる	

24時間シートの活用



- ① 再度、その方に対してどの時間に、どの種類のオムツを、どのように当てればいいのかを調査しました
- ② 男女別の当て方注意点を、何時にオムツの種類を変えているのか一目でわかるような表です

ユニット	Aユニット				入居者	A様				性別	身長
日付	時間	オムツ	交換	回数	時間	オムツ	交換	回数			
7	/	/	/	19	/	/	/				
8	/	/	/	20	/	/	/				
9	/	/	/	21	/	/	/				
10	/	/	/	22	/	/	/				
11	/	/	/	23	/	/	/				
12	/	/	/	24	/	/	/				
13	/	/	/	1	/	/	/				
14	/	/	/	2	/	/	/				
15	/	/	/	3	/	/	/				
16	/	/	/	4	/	/	/				
17	/	/	/	5	/	/	/				
18	1	1	リハ	6	1	1	リハ	オムツ			

※ 入居者のオムツ交換時に気をつける事、注意点

記入例

バットの当て方(夜間)	バットの当て方(夜間)
男 イ	男 イ
女 イ	女 イ

排泄パターン再確認

- ・マニュアル作成時にオムツの置き場所を工夫し、以前はユニットに1か所にまとめて保管していましたが、排泄介助が必要な方の居室に個別に保管することでその人が使うオムツがわかりやすくなりました。
  - ②入所後の再アセスメント不足。
    - ・もう一度その方を知りなおすために、入所時の書類等を確認する。(その情報が正しかったのか、各部署やご家族に協力を得て確認する。)
  - ③記録が書きづらい。
    - ・記録様式の見直しを検討し、排泄回数、オムツの種類が一枚で記録できるよう、記録を簡素化しました。
  - ④勉強会の機会がない。
    - ・オムツ業者に依頼し、正しい使用方法・吸収性の機能の説明をしていただく。
    - ・各自の自己学習とユニット同士の意見交換会を設ける。
  - ⑤情報の共有不足。
    - ・排泄に関する工夫やアイデアを記録に残す。
    - ・他ユニットから支援に来た方でもすぐに対応できるような情報記録を作成し共有する。
- という対策を実施しました。

ポイント ⑥ 対策の立案と実施

5W1Hに沿って、しっかりと実施計画表を作成し、具体的に進めています。また、対策実施は具体的であり、排泄介護の現場に最適な対策であり、誰もがわかるように標準化されています。これからは、オムツ使用方法のバラツキが少なく入居者様も安心して快適な生活が送れると思います。

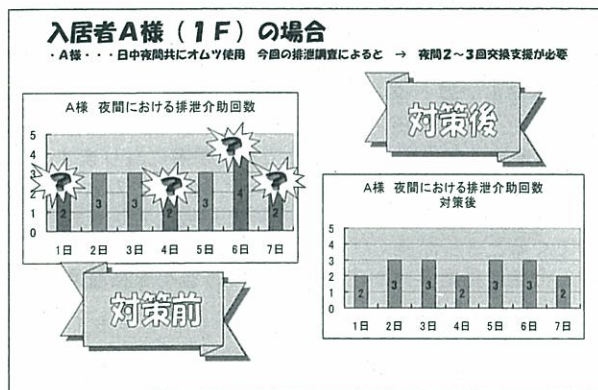
9. 効果の確認

(1)有形効果確認①

1人あたりの平均枚数が対策前と比べ、女峰山で16.0枚から15.3枚に(-0.7枚)、白根山で19.5枚から16.2枚に(-3.3枚)、男体山で17.4枚から17.1枚(-0.3枚)、八幡山で19.6枚から14.8枚に(-4.8枚)、古賀志山で15.1枚から13.0枚に(-2.1枚)、全体では17.4枚から14.88枚(-2.6枚)になりました。

(2)有形効果確認②

入居者A様の場合で対策前2回、4回とバラつきがありましたが、対策後、平均的になりました。

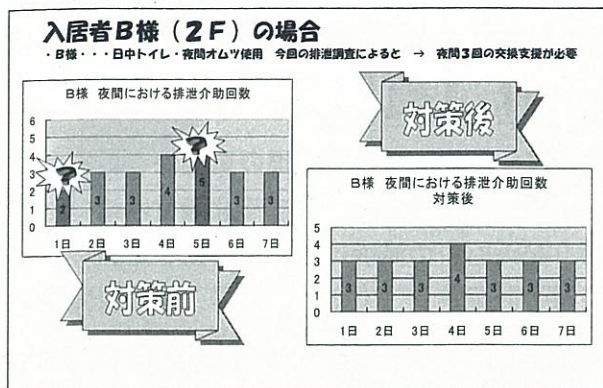


有形効果②

(3)有形効果確認③

入居者B様の場合で対策前2回、5回とバラつきがありましたが、対策後、平均的になりました。

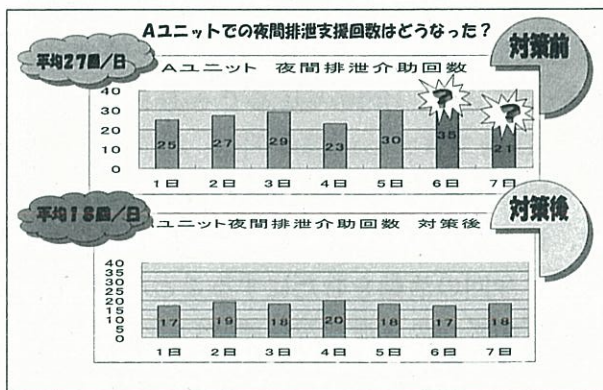




有形効果③

(4)有形効果確認④

Aユニットの場合では、総排泄介助数が対策前最大で35回、最低で21回と大きなバラつきがあったものが、対策後、最大で20回、最低で17回とバラつきが減少しました。また、平均回数も27回から18回に減少しました。



有形効果④

(5)有形効果確認⑤

各ユニットそれぞれ1人あたりの平均枚数が、対策後、17.4枚から14.88枚に減少し、目標値のほぼ15%減を達成することができました。

(6)無形効果の確認

- ①オムツに対するコスト意識が高まった。
- ②個々の排泄支援について話し合う機会が増えた。
- ③様々な視点から問題を考えることができるようになった。

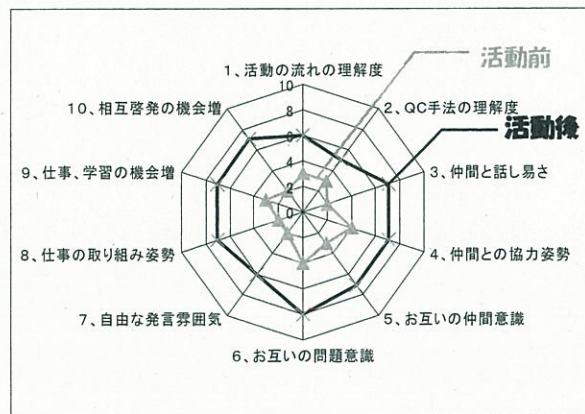
コスト面での比較をしたところ、対策前と対策後では一週間でマイナス13,395円に、年間で見るとマイナス696,540円の削減になりました。この結果には驚きました。

(7)波及効果の確認

- ①ユニット毎のオムツ保管の管理ができるようになった。
- ②排泄記録の記入漏れが減少した。
- ③24時間シートの作成により、そのユニットに初めて入る職員でもスムーズに業務に就けるようになった。

(8)活動前後のサークルの成長

メンバー1人ひとりの個性を活かして協力し、がんばりぬいたことで、全ての面において成長がみられました。



メンバーの成長

ポイント ⑦ 効果の確認

有形効果は、まず、設定した目標値との比較が一番大切です。そして、達成率も表現することです。さらに目標設定以外の効果「波及・相乗効果」も具体的にデータで確認されています。大変良くできています。無形効果もコスト意識の向上、各ユニットの排泄支援での話し合い、コミュニケーションがよくなり、職場の活性化につながったことも大きな効果です。

あえて申せば、入居者様の満足された声や感謝の声なども表現されるとよいと思います。また、メンバーの成長のレーダーチャートも大変よいのですが、活動前の度合いも最初に把握しておいたほうが良かったと思います。



## 10. 標準化と管理の定着

分類	何を	どの様に	時期	誰が	管理手法
① 標準化	・マニュアル改訂	・随時アセスメントシート使用・作成	毎月	・ユニットリーダー	・月初めに確認
	・排泄記録の徹底・確認	・ユニット毎に記録を確認	毎日	・記録担当者	・毎日記録を確認 ・リーダー管理
	・オムツ在庫確認	・オムツ在庫を確認、コストも常時報告	毎月	・オムツ管理者	・月初めに各ユニットで検討
② 周知徹底	・オムツに関する勉強会の開催	・オムツ業者による勉強会を開催	不定期	・施設長	・オムツに関する疑問点等を確認
	・オムツ使用体験	・オムツ使用者の気持ちを持体験する	年2回位	・研修委員会	・研修委員会を設立 定期的勉強会を
③ 管理の定着	排泄記録確認	排泄記録が記入してあるか確認	毎夕 毎朝	・リーダーが ・引継ぎ者が	・記録を確認 ・責任を持って記録
	コスト面での評価	コスト面でのばらつきはないかを確認	月末	・オムツ在庫管理者	・毎月のコスト情報を元に在庫調整
	情報の共有化	毎月の情報を各部署に共有して頂く	第1週会議	・各ユニットリーダーが	・ユニットリーダー会議で報告・確認

標準化と管理の定着

### ポイント ⑧ 標準化と管理の定着

このステップでは「標準化」・「教育訓練」・「周知徹底」・「管理の定着」がポイントです。みごと5W1Hで基本どおりに歯止めがされています。参考になるところです。あえて申せば、テーマ解決後の管理状況（歯止めの状況）をグラフ化し表現するともっと良くなります。

## 11. 反省とまとめ

今回、QC活動を通して、どうすれば入居者様の安眠を確保できるか、メンバー同士で何度

CS-QCステップ	良く出来た事	出来なかった事
① テーマ選定	問題視していた事だった為、一致した	時間がかかった
② 現状把握	現状から数値化が良く出来た	時間がかかった
③ 目標設定	目に見える結果だった	—————
④ 対策立案	各職員が協力的だった	全ユニットの意見をまとめられなかった
⑤ 効果の確認	大きな成果が得られた	トラブルがありデータ取りが困難だった
⑥ 標準化・管理徹底	定期的な管理と、介護の視点を交える事が重要	—————
⑦ ミーティング	限られた時間だったが良い話し合いが出来た	有効な時間設定が出来なかった
⑧ 全体の活動運営	職員の協力が得られた	予定が多少遅れた

反省とまとめ

### まとめ

「インブルーバー」サークルの6名の皆様、大変ご苦労様でした。

今回の活動は、「人を愛し、地域に愛される」をモットーとして、入居者様の安全な、安心できる、快適な生活を支えてあげられるかを追及した素晴らしいテーマであり、活動です。生活の基本である「質のよい睡眠」に着目され、心地よい睡眠を入居生活上最優先すべきであると考え、「利用者満足」に尽きる活動です。「三現主義」と「事実データ」をもとに、「悪さ・問題」の原因は自分たちにあるといったスタンスで取り組んでいます。なかなか出来ないことです。

皆様にとって、大変満足感、達成感のあったものと確信しています。

これからも「1人が皆を、皆が1人を」支えあって、CS(顧客満足: Customer Satisfaction)・CD(顧客感動: Customer Delight)に努力していきましょう。

(QCサークル本部認定講師 渡辺 孝)

も悩みましたが、各職員がそれぞれの個性を持ち寄り、知恵を共有することで素晴らしい結果を出すことができました。

特に、記録・情報の管理の重要性を再確認でき、職員間でも情報に対する意識付けにつながり、記入もれの減少につながりました。

### ポイント ⑨ 反省とまとめ

ステップごとにしっかりと反省しています。ここで反省をしっかりと行うことで、サークルメンバーの成長に結びついてきます。大変良く出来ています。

## 12. 今後の課題

入居者のために何をすればいいのか。そのような気持ちから今回の活動はスタートしました。睡眠の時間は次の1日を元気にするための重要な要素です。

入居者様にきちんと安眠していただき、毎日を元気に過ごしていただけることを継続していくことが、介護の基本でもあると思います。

今回は排泄に着目しましたが、次回の第二章は、違う観点からも取り組んでいきたいと思えます。今回の活動をむだにすることなく、定期的な入居者様の排泄状況を確認し、常にその方に合わせた排泄介助ができるようにし、安眠の確保をする努力をしていきます。

これからも他職種協働で入居者様が快適な暮らしが送れるようにがんばっていききたいと思います。